

障害のある人の「働きたい」気持ちを大切に、菓子づくりに取り組み就労継続支援B型事業所「京のちから」(075-468)1130。サービス管理責任者を務めるのが精神保健福祉士の宮嶋優行さん(38)だ。京都市左京区の菓子工房と中京区の作業所を行き来し、利用者の菓子づくりや袋詰めをサポート。福祉の製品だから、ではなく、しっかり作られた製品として気に入ってもらいたい。能力の高い利用者さんも多く、それぞれの目標や強みに合わせて支援しています。

事業所の母体は、カフェの運営なども手がける有限会社「グラン・ブルー」。利用者は、精神障害者や知的障害者合わせて7人で、工房と作業所二つの拠点で得意な作業に取り組んでいる。菓子類は、企業ブランド製品を製造するOEM(相手ブランド)による生産などの受注が中心だ。

大学で福祉を学んだ宮嶋さん。さまざまな分野の勉強やボランティア活動を積み重ねたが、わからなかったのが精神障害者だ。「統合失調症やうつ病など、成長環境や背景が人によって違い、気質との複合的な要因もある。この障害は何なんだろう、という感覚でした」。そこで卒業後は精神障害者対象の事業所に入職。2011年

わたしの現場

精神障害者の働き方支援

みやしま 宮嶋 優行さん



「ゲームなどの新しい分野の活動で利用者の可能性の幅を広げたい」と語る宮嶋優行さん(80口京都市中京区)

「わからないけど」から開始

にグラン・ブルーに転職した。魅力を感じたのは一般企業が福祉の事業所を手がけている点だ。「福祉を前面に出さない福祉をやりたい」。製品も、障害者が作っているのをアピールせず、あくまでも品質にこだわる。

利用者とのコミュニケーションは自然体だ。人間関係ができてくると、

「その考え、僕は違うな」と伝えることもある。「全て共感するわけでもないし、考え方はそれぞれ」。大学時代の「利用者のために」という一方的な熱い気持ちも、実際に携わると邪魔になることもあるとわかった。

ただ、障害のある人は社会的弱者になりがちだ。その背景は見え

わず「二人のひと」として接する。「精神障害のある人はいまだにわからない存在だ」と、「わかる」は当事者しか言えないと気づき 시작했다。「僕はわからないけど」から始める。そこが着地点ですね」事業所では新しい試みもスタートさせた。コロナ禍をきっかけに、菓子作りとは違う方向性を模

索。電子機器を使った対戦をスポーツとしてやる。eスポーツにも取り組めるパソコンを台導入したゲーム好きの利用者がいることもあり、できることの幅を広げる試みだ。支援学校の生徒の進路先は、作業所や清掃などが多く、選択肢が少ない。けれど彼らの将来の夢は、声優やVTuberなど。ゲームや動画編集、インスタグラムライブなどもできて夢が広がる。そういう場所があってもいいはず。現在は余暇活動として、業務の終了後などに活用しているが、さまざまな広がりを見込んでいる。「事業所同士が交流したり、大会を開いたり。興味をもつ人が増えれば、できることも増える」。柔軟な運営が持た味の企業ならではの発想だ。「引きこもりの人が、ゲームをきっかけに外に出る気持ちになるかもしれない。この環境が、だれかの生き方に変化を生むことができればいいですね」(フリーライター・小坂綾子)

福祉のページ





2013/4/26 — 京都新聞丹波版

2013年(平成25年)4月26日 金曜日

京丹波町の障害者就労支援施設「むらいちば和知」を運営する事業所「和知のちから」が、同町大倉の休耕地を使って野菜を栽培している。このほど地元区や府、町と「京都モデルファーム協定」を締結。障害者の働く場を生み出しながら、農地の保全にも貢献している。

# 障害者、休耕地で農業

「むらいちば和知」によると、3月に府の仲介でモデルファーム協定を結び、地元から農地、精神の障害者らが農指導を受けることに動員してそはや草子を取った。現在、協定対象外の畑を広げるため、昨夏、農地も含めて休耕地から地域の畑を借りて約50坪を耕している。大根などを育てた。地産野菜は約20人、トマタとの連携をより深めトやキュウリ、ナスの

京丹波の事業所 農家指導受け  
働く場と農地保全

ほか、万願寺トウガラシなどの京野菜も栽培する。指導する地元農家の桑木康雄さん(71)は、「この辺りは高齢者が多い。若い人が元気がいいに畑仕事をしてくれてうれしい」と喜ぶ。

収穫した農作物は、「むらいちば和知」で販売したり、自分で製造する草子の材料に使う。石井雄一郎社長は「農業は達成感があり、障害者にも適した仕事。今後も耕作地を増やしていきたい」と意気込む。(山下穂)



タマネギ畑の世話に訪む和知のちからの従業員(京丹波町大倉)



2013/3/29 —  
全国農業新聞

(13) 2013年(平成25年)3月29日(金) 全 国 農

# 京都

京都府支局  
京都府農議会  
京都市上京区  
出水通油小路  
東入丁子風呂  
町104-2  
府庁西別館内  
075(441)3660



大倉区の井上区長(中央)と(株)京のちからの石井代表取締役(左から2人目)の協定締結を見守る山田府知事(右端)、寺尾京丹波町長(右から2人目)、農業会議の林副会長

## 「モデルファーム」2か所で協定

### 「棚田で園児の食育活動」など 京都市 京丹波町 農業で障害者の自立支援

西山ノ麓野菜の会は食育と環境に関心の高い農産物販売業者や保育園の経営者8人でつくる組織。農家の高齢化と獣害などで遊休化が進む小塩町の棚田23畝で園児の食育活動や野菜づくりのほか、地域の農家と共同で獣害防止柵の設置や農道の補修などに取り組む。一方、(株)京のちからは、障害者福祉事業を展開する会社。大倉の農地15畝で大倉区の役員と連携し、野菜づくりや加工品づくりなどに取り組む。障害者の自立支援にむけた取り組みを行う。

22日に京都府庁で行われた協定調印式には、それぞれ地元と活用団体の代表のほか、山田啓三京都府知事を始め、関係機関の代表者らが出席し、双方の未来い関係と取り組みへの支援を確認した。農業会議からは林副副会長が出席した。

地域の農家だけでは保全が難しくなった農地を農外の活用団体に有効利用してもらおう「モデルファーム協定」が京都市と京丹波町で締結された。

今回、協定を締結したのは、京都市西京区大原野の小塩農家組合(林哲一組合長)と「西山ノ麓野菜の

会」(山崎健大代表理事)及び京丹波町大倉区(井上要区長)と「株式会社京のちから」(石井雄一郎代表取締役)。



京都モデルファーム運動

シンボルマーク解密  
フに、豊かにふりそでぐ  
イメージし、中央には農  
ともに「農業の豊かさ」  
インになっている。

モデルファーム運動  
つなぐ手で 伸ばす夢  
標語とシンボルマーク決

「京都モデルファーム運動」の普及啓発のため、京都市と京都府農業会議が公募していたシンボルマークと標語が決まり、公表された。

シンボルマークには、222点の応募作品の中から最優秀作品に選ばれた平山陽一さん(園児局市)の作品が採用された。写真、太陽、緑、京、人が力強く表現されており、「温かみ」があると高く評価された。

2012/11/13 —  
京都新聞丹波版

京丹波 2012年11月13日

## 障 害 者 就 労 施 設 奮 闘 1 年

### 地産品販売 京丹波「むらいちば和知」

地元産品を販売する障害者の「就労継続支援A型事業所」としては、丹波2市1町で初めて。材料にこだわりながら、そばやスイーツなどを提供している。

就労支援施設「むらいちば和知」が京丹波町丹谷にオープンし、今月で1周年を迎えた。雇用契約を結び最低賃金を保障する。



ロールケーキなどの洋菓子を販売するむらいちば和知  
(京丹波町丹谷)

### 最低賃金を保障 増員予定

株式会社「京のちから」(京都市中京区)が運営、同社は京都市内で、A型事業所の単子販売店を手がけている。郊外に新店を検討していたところ、京都市の福祉推進課の仲介で、京丹波町に進出した。

丹波産のそば粉を材料にしたそばの食事や、南丹市美山町の有機卵を使ったロールケーキやプリン、京野菜のクッキーなどを販売している。地元農家直送の野菜や、土産物も並んでいる。

18歳から59歳の12人が勤務し、そばの調理やレンダリ、掃除などの業務を分担している。個人の希望を取り入れ、なるべくさまざまな仕事に挑戦してもらっている。来年度はさらに増員する予定。

国道7号沿いの立地を生かし、観光客の利用も多い。今後は、農業に取り組んだり、駐車場の拡張も計画している。運営が難しいとされるA型事業所だけに、他企業や福祉施設も視察に訪れ、注目されている。石井雄一郎社長(47)は「障害者の働く場を各地域に増やすためにも、うちが事業として成功しなければ」と語る。

木蘭定休。問い合わせは、むらいちば和知 0771(84)5222



2012/11/03 —

MK新聞「キラリ☆夢の架け橋」

# 網野ひとみ&作業所 キラリ☆夢の架け橋

Vol.24

私が一歩ずつ歩んで来たのは1999年8月でした。初めて私が「え、これが桑の題して、小冊子にまとめ

「賢治百姓真似一笑」とりのは、フジテレビ 日767

たと思いきや、その理由をうかがうと、「利用者が苦手に感じていることも、やってみると意外にできることがあるとあります。得意な仕事を一つ見つけてそれを伸ばし、就職につなげてほしい」という答え。「京のちから」は就労継続支援A型事業所、いわゆる「雇い型」の事業所である。利用者にはしっかり働いてもらい、事業所として利益を出し、そして「給料」と「就職」という成果を利用者にもたらすことを、石井さんは第一に考える。またキッズカフェには

こんな想いが。「子育てや子どもの障がいや悩んでいるお母さんたちがここを訪れ、悩みを共有できる友人ができた、障がいのある方が一生懸命働いている姿をみて安心してもらえるとうれしい」。

## 京のちから

歌手・網野ひとみさん（徳間ジャパン）が福祉歌謡活動を始めるきっかけとなった共同作業所をめぐる当コーナー。今回は、菓子工房、キッズカフェ、野菜販売など、多様な事業を行う「京のちから」を紹介する。

ともと母親が遊びながらくつろげるカフェ、3階にお菓子を作る工房を併設。これら全てが利用者である知的障がい者・精神障がい者の作業場となっている。一番人気のお菓子は、京都・美山の有精卵を用いた「たまごロールケーキ」（300円）だ。施設長の石井雄一郎さんによると、カフェにある熱帯魚の水槽掃除から、野菜の手売りや声出し、菓子作りや袋詰めなど、利用者には事業所内の仕事を一通りやつてもらおう

施設長の石井さん

2階のキッズカフェ

ひとみの一言  
2階のキッズカフェに色々な工夫がされているのに感じました。もともとこういう場所があることをお伝えしたいです。購入したロールケーキも独特の味わいがあり、おいしかったです。

◎京のちから  
京都市中京区大宮通三条下る三条大宮町258  
開所日・火～日曜 11時～17時

075・468・1130



工房でのお菓子作り



施設長の石井さん



2階のキッズカフェ





この人と話そう

グラ・ブル社長

いしい ゆういちろう  
石井雄一郎さん



クッキーが広げる障害者雇用

「井さんは本業の熱帯魚店に加入して、障害者を雇用するために「京野菜つき」というユニークなお菓子の製造と販売もされています。障害者を雇ったきっかけは何だったのですか？」  
「2009年4月に京中小企業同友会の会で就労支援事業所の所長と知り合い、類まれのがきつかったです。精神障害のある30代の男性を紹介され、8月から熱帯魚店で就労実習をしてもらいました。最初は「京野菜つき」がなかったのですが、当時の所長が「京野菜つき」がなかったら困ったことはないか」と、一般的な精神障害の場は体力がなくて2時間くらいで

心がかかった石井さんですが、障害者支援にかけがえないは「京野菜つき」から来るのです。私は2歳か3歳の時やけどし、左目がケロイド状になっています。幼稚園の時か、初めて会う友だちには保護的な目で見られました。そのうち一人一人立ちが夢のと同じくこれが石井君と受け入れてくれました。小中、高と同じような体験を繰り返すうちに、仲間がかりました。人と違っても受け入れていくことは、そんな



社員の強いサポートで、5歳から就労教育のイベントは京都市内各地の障害者福祉センターで実施。初回は「京野菜つき」を製造する体験も実施しています(写真:京都市)

特性見極め適材適所に

「京野菜つき」は、京野菜の栽培と収穫の作業を、障害者が行うことで、京野菜の産地である京都市の活性化に貢献しています。また、京野菜の栽培と収穫の作業は、障害者の特性に合わせた作業であり、障害者の就業機会を拡大しています。京野菜の栽培と収穫の作業は、障害者の特性に合わせた作業であり、障害者の就業機会を拡大しています。京野菜の栽培と収穫の作業は、障害者の特性に合わせた作業であり、障害者の就業機会を拡大しています。

1965年、京都市中京区生まれ。関西大法学校卒業後、アパレル会社を経て仏産の製造業の会社に就職。家業は校衣染め工場だったが新興団体の会社にあおられて95年末に廃業。その際に退職し、工場跡地で父親とともに熱帯魚販売とメンテナンスの会社「グラ・ブルー」を興し社長に。京都市中小企業家同友会下京支部副支店長。

とまごのせいじ

比叡山大園梨 酒井雄一郎さん

いのちは、みんなが「つず」つ持っている大切な宝です。ともに生きる、いのちある者すべてが、ともにこころをこほりあわせ、助け合って、素晴らしい人生を送りたいものです。



